

新刊紹介



東京の橋 100選+100

著者：紅林章央
発行：株式会社 都政新報社
仕様：A5判、176ページ
定価：1,800円（税別）

著者の紅林章央氏は現役の東京都建設局道路建設部橋梁構造専門課長で、都内にある多くの橋の設計や、東京臨海新交通臨海線「ゆりかもめ」の建設にもかかわった「橋のエキスパート」である。

東京には、隅田川、多摩川などといった大きな川に加え、様々な中小の河川、用水路などが流れている。そこには数多くの橋が架けられているのだが、紅林氏によると、車が通ることのできる橋は5千数百橋以上、更に歩道橋や鉄道橋を加えれば7,000橋ほどあるという。

江戸時代から明治・大正時代、そして関東大震災後の復興橋梁に至る江戸・東京の橋は、それぞれの時代の高度な技術や優れたデザインを誇っている。

本書では1985年に東京都入庁以来、橋一筋の紅林氏が、隅田川、多摩川などに架かる橋の中から新しい橋、歴史的に貴重な橋、構

造的に特徴のある橋など様々な観点から選んだ100橋と、鉄道橋や歩道橋など特徴のある100橋、合計200橋を掲載。その歴史と構造や特色、建設に携わった人々の苦労や架橋当時の難しさなどといった興味深いエピソードを紹介している。また、その場所を直接訪ねることができるように簡単な地図を掲載した、オールカラーのガイドブック仕立てとなっている。「橋」にはまった紅林氏が丹念に調べ上げ、本書の帯にも書かれている「橋LOVE！」のフレーズを地で行くような、持てる限りの橋への愛情を込めて、橋の魅力についてまとめたものである。

現在の写真や架橋時の写真などが掲載されていて、見るだけでも橋の魅力が伝わってくる。紅林氏は「はじめに」で、本書を通して橋に興味を持ってもらい、本書を手し、実際に訪ね歩くことで「マイベストブリッジ」に出会って欲しいと記している。